

令和元年度 立山町総合教育会議 議事録

1. 開催日時 令和元年12月4日(水) 15時～16時20分
2. 開催場所 立山町役場4階 全員委員会室
3. 参加者 町長 舟橋貴之
教育委員会 教育長 大岩久七
委員 大畑年 柴田智子 牧野重雄 金川良子
4. 事務局 企画政策課 林弥生、米谷隆、江航
教育課 青木正博、作田英信、坂井善信
5. 傍聴人 1名

協議事項1

● ICT環境の整備について

- ・町長より、小中学校のタブレット型パソコン及び無線情報通信網(Wi-Fi)の整備についての提案がされた後、各教育委員との意見交換を行った。

■ ICT環境の整備について 【説明者：舟橋町長】

- ・政府が小中学校の児童・生徒に1人1台の学習用パソコンかタブレット型端末を無償で提供する方針を固めたとの報道を受け、立山町においても国庫補助の概要が判明したらすぐさま対応したいと考えている。
- ・Wi-Fi環境についても、災害時の避難所になる学校施設への整備は防災の観点からも必要だと考えており、今回の政府方針によって、有利な財源で整備できると思われる。
- ・費用と調達の面を鑑み、どの学年から整備をするべきか教育委員の皆様のご意見を伺いたい。

◇教育委員からの意見

- ・これからの子どもたちの学習環境にはタブレット端末やWi-Fi環境が必要になってくると考えている。
- ・まずは小学6年生全員が使える環境が優先されるべきであろう。また、小学校と中学校の連携という観点から中学1年生への導入との組み合わせが好ましい。
- ・中学1年生になると、調べ学習などタブレットに触る機会もあるため、小学6年生と中学1年生の組み合わせがよい。
- ・はじめに小学6年生と中学1年生に導入した後、順次、小学5年生と中学2年生に導入すれば、進級によって途切れることなくタブレット端末に触ることができる環境を構築できる。

◇町長の発言

- ・国の予算や市町村への割り当てがどれくらいになるかまだ分からないが、割り当てられた予算はすべて活用したいと考えている。
- ・小学6年生、中学1年生の順に整備し、以降は小学5年生または中学2年生に導入する方向で進めていきたい。

協議事項 2

●リーディングスキルテスト（RST）について

- ・事務局より今年度行われたRSTの結果について説明がされた後、各教育委員との意見交換を行った。

■リーディングスキルテストの結果について【説明者：事務局（教育課）】

- ・今年度は町内全6小学校の6年生と、雄山中学校の全学年が受検した。
- ・RSTの結果は学校別になっている。
- ・受検後の学校意見についてもとりまとめた結果、次のような意見があった。

<メリット>

- 受検者すべてに結果の個票（個人成績）が出力されるため、参考にできる。
- 個票を児童・生徒に読ませ、簡単な感想を書く機会を設けることができた。
- 読む力について一定のデータが得られた。
- これまでとは異なったタイプのテストであり、「新たなスタイルへの取組み」といった生徒の経験値があがった。

<デメリット>

- パソコンの事前の設定が難しく、受検に係る準備が大変であった。
- 問題の語彙が小学6年生にとって既習の漢字でないものが多く、また、問題の内容が小学校の生活とはかけ離れたものがあり、解答への意欲が減退する児童が多く見られた。
- 検査時間が80分程度と児童の負担が大きく、後半には集中力が途切れ正しく判断できなかったのではないか。

◇町長の発言

- ・来年度もぜひRSTを実施したいと考えている。
- ・デメリットの部分で挙げられていたパソコン等の事前準備の負担は、さきほどのタブレット端末の導入によって解消されるだろう。その上でRSTの必要性を判断していただきたい。

◇A教育委員の発言

- ・文章を正確に読んで正解を導き出す手立てが重要であると認識されたが、毎年実施する必要があるのか。RST受検に掛かる費用をテスト結果を踏まえた今後の対応に使えばいいのではないか。数年に1回の実施でよいと感じる。

◇B教育委員の発言

- ・学校から出された意見は重く受け止めるべきだと思う。RSTの結果をどう授業に生かしていくのかは非常に大きな課題であり、教員の負担も大きい。
- ・来年4月からの新学習指導要領の実施に向けて全力を注いでいくことの方が重要である。
- ・町が単独で実施している学力調査も読解力や思考力が重視され、その結果を教員は有効に活用している。そのため、RSTの実施は次年度から見合わせてみてはどうか。

◇C教育委員の発言

- ・今回の結果を見て、立山町の小中学生の読解力は優れていると感じた。今は新学習指導要領の対応に注力してもらいたい。
- ・小学生は特にその時の気分や体調によってテスト結果が揺らぐ。そういった面もRSTは考慮されているのかは疑問である。

◇D教育委員の発言

- ・今回の結果を見ると、それほど悪くないと感じた。
- ・英語やパソコンの授業など、教員のやる事が多くなってきている。学校経営の工夫など、教育環境の改善を優先すべきである。
- ・読解力がそれなりにあると分かったいま、RSTをもう1回実施する必要はないように思う。

◇教育長の発言

- ・読解力を診断するというのは画期的な取組みであり、「教科書が読めない」という状況は何とかしなくてはならない。
- ・全国学力テストでは県平均より高い小学生の学力がなぜ中学校で維持できないか、この問題に対する分析をどう評価するのは難しい。
- ・教科指導をどうするのか、子どもたちをどう見てどう手立てしていくのかという学校経営を検証していかなくてはならない。

◇町長の発言

- ・教育委員会の意見はよく承った。実施に関しては予算の関係もあるので、今後、町議会議員の意見も聞きながら検討をさせていただきたい。

協議事項3

●「edumap（エデュマップ）」プロジェクトの参加について

- ・事務局より「edumap」について説明がされた後、各教育委員との意見交換を行った。

■「edumap」の概要について 【説明者：事務局（企画政策課）】

- ・「edumap」とは、一般社団法人 教育のための科学研究所、(株)NTTデータ、さくらインターネット(株)が提供する教育機関向けクラウド型ホームページ運営サービスのこと。
- ・教育機関の業務に特化した機能を持ち、保護者や生徒への情報発信やコミュニケーションの活性化が期待できるほか、災害時における情報交換の場としても活用できたり、自動翻訳により学校ホームページの多言語化にも対応できるようになる。
- ・無償版と有償版があり、機能に差がある。有償版の利用料金は未公表。
- ・「edumap」への参加登録は令和2年1月から開始される。

◇町長の発言

- ・町内でも外国人の方が増えているため、自動翻訳ができるのはいいことだと思っている。
- ・また、災害時には学校が避難所になるため、多言語化された情報が掲載され、スマートフォンからも閲覧や更新ができる。
- ・基本的には無償で利用できる。
- ・「edumap」に既存のホームページのデータを移行する必要があるが、その作業は町が行うこととしたい。

◇教育委員の発言

- ・町内で外国籍の児童数は何人いるか。

◇事務局の発言

- ・日本語指導が必要な児童は小学校に3人、中学校に2人いる。

◇教育委員の発言

- ・「edumap」がどういったサービスなのか情報が少ない。すぐに導入を決めて大丈夫なのか。

◇町長の発言

- ・すぐにサービスを切り替えるということではなく、現行のサービスを利用しながら移行へ向けて準備を進めていきたいと考えている。

その他（質疑応答）

●教員支援員（スクールケアサポーター）の人員確保について

◇教育委員の発言

- ・児童・生徒の成績の底上げと学習意欲向上のため、教員支援員（スクールケアサポーター）の人員確保が必要である。ぜひ、そのための予算の充実をお願いしたい。

◇事務局の回答

- ・今年度で退職する教員支援員もいるため、その補てんと併せて、新たな人員確保のために動いているところである。

◇町長の発言

- ・教員支援員の増員はいいことなので前向きに検討したい。

●教員の資質向上研修について

◇教育委員の発言

- ・若い教員にもっと資質向上研修に参加してほしい。

◇町長の発言

- ・現場に立つ若い教員が優先して研修に参加できるよう働きかけたい。

[閉会時刻 16時20分]